



東亜ディーケーケー（株）（東証一部：6848）

平成27年12月3日

機関投資家向け会社説明会

世界に“役立つ”
企業を目指す

過去

現在

世界最高水準の
“頭脳集団”を目指す

未来

発表者 代表取締役社長 佐々木 輝男

企業合併“15年”改革の歩み

- 1. 改革の歩み**
- 2. 平成28年3月期第2四半期決算**
- 3. 平成28年3月期通期業績予想**
- 4. HYBRID経営計画(中期経営計画)**

－ 当社の強みを生かした成長戦略と課題の解決 －

強みと特徴

- 1、超一流のお客様とお取引をさせて戴いている。
- 2、米国-HACHとの提携で国際ビジネスを展開。
- 3、特徴ある関連子会社(6社)の強力な生産体制。
- 4、営業から開発・生産・据付に至る自社一貫体制。
- 5、研究・開発型の企業を目指し環境・医療で貢献。

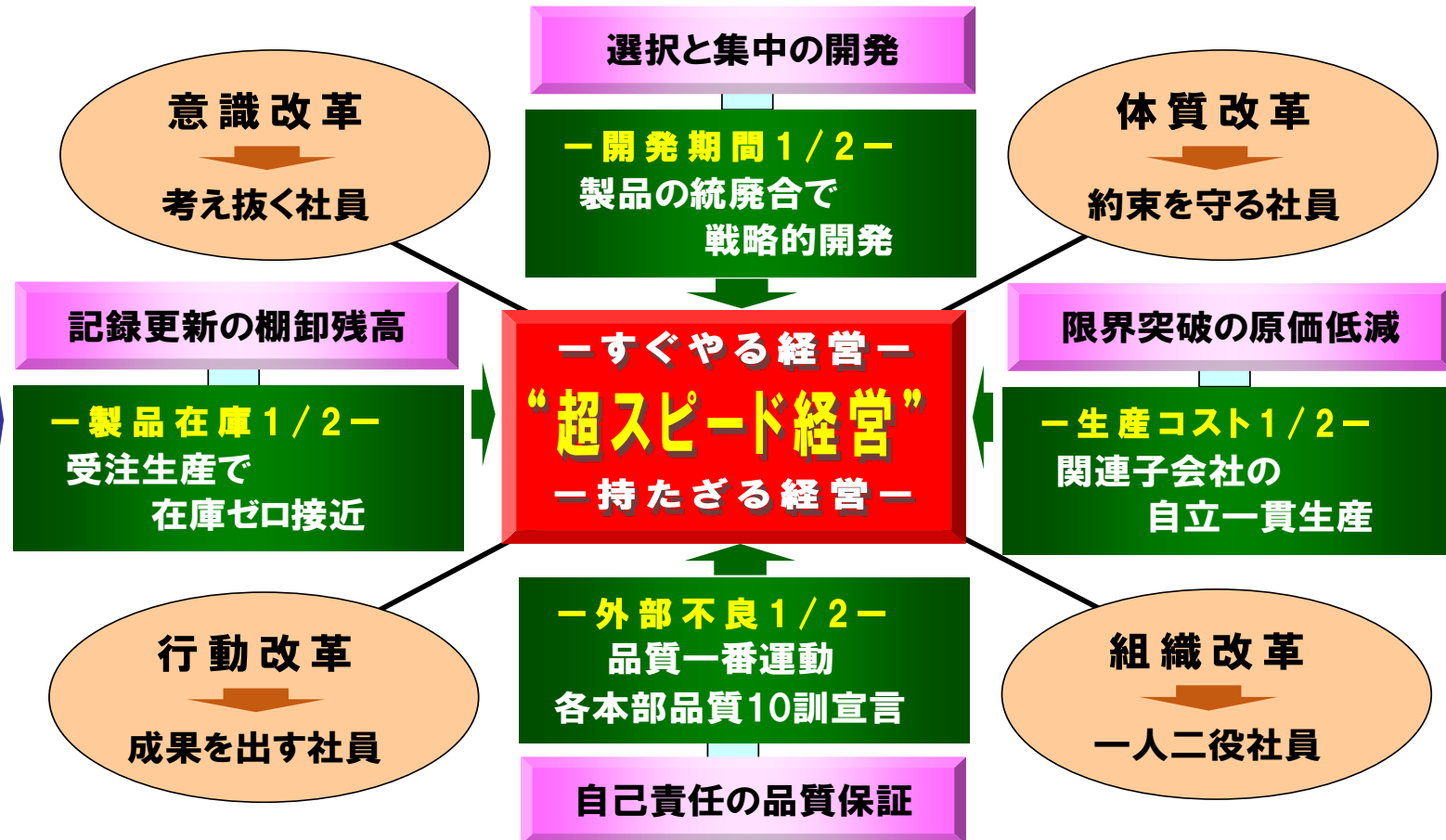
課題の解決

- 1、国際市場での販売・生産拠点整備と売上高の拡大。
- 2、新分野開拓(臨床医学・酪農・畜産等)と製品開発。
- 3、独自製品の開発投資拡大で収益力と財務体質強化。
- 4、海外で活躍できる外国人の採用と海外戦略再構築。
- 5、女性の幹部育成とシニアが活躍できる環境の整備。

東亜DKKの“過去・現在の取組みと未来への布石”

－ 企業合併の成果を加速させる同時多発的改革 －

全社員が改革の「うねり」を起す新提案制度の導入



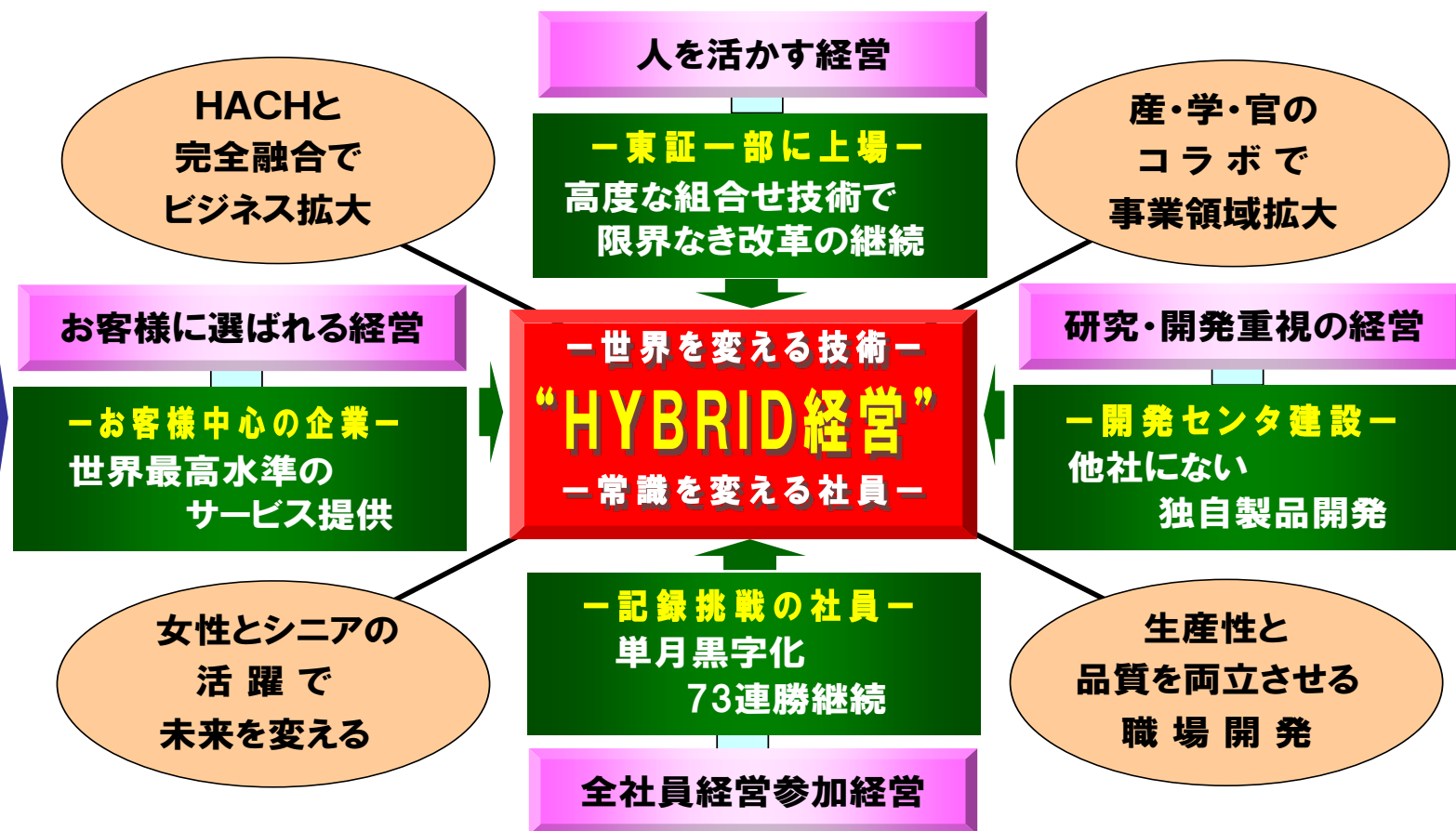
企業全領域の「品質改革」で新たな収益源の創出

過去の取組みと成果

－ お客様と共鳴する“心の経営”で世界最高水準の頭脳集団をつくる －

経営陣の「質の高いマネジメント力」の発揮

全社員が東亜DKKを変える「変革者」となる



一流の技術

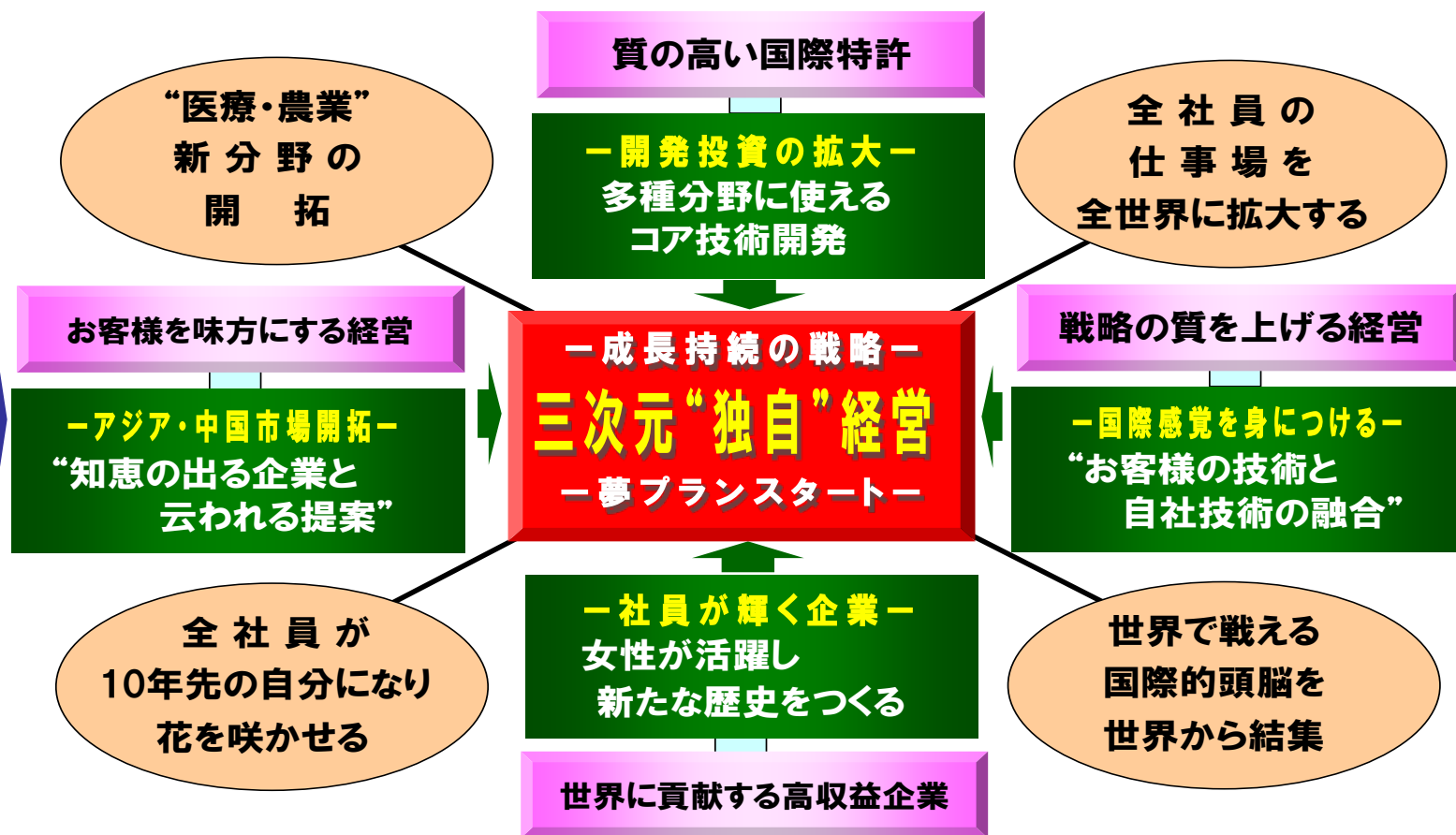
現在の取組みと成果

一流の社員

－ 未来の価値を創造し“世界に役立つ”企業を目指す －

次世代につなぐ「無限のお客様」を創り出す経営

お客様・株主殿・社員の声を成長の原動力とする経営

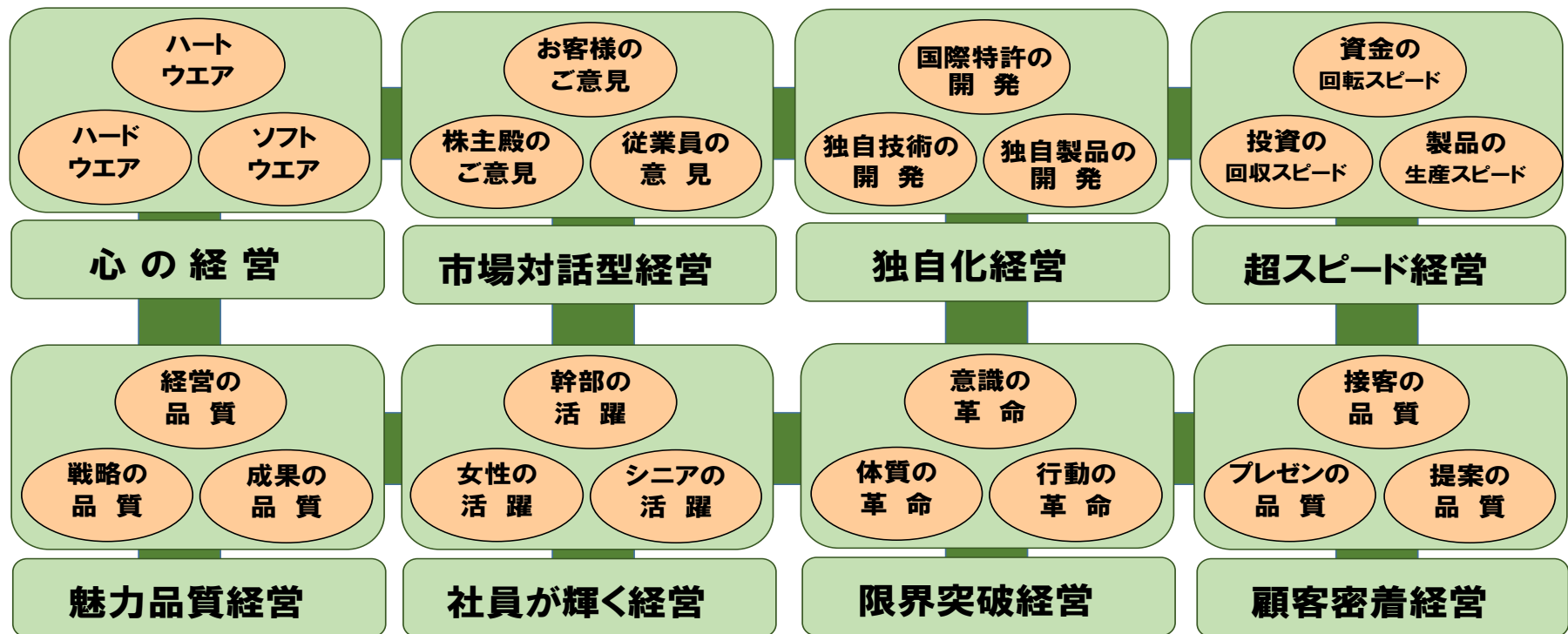


未来への企業イメージと取組み

参考事例

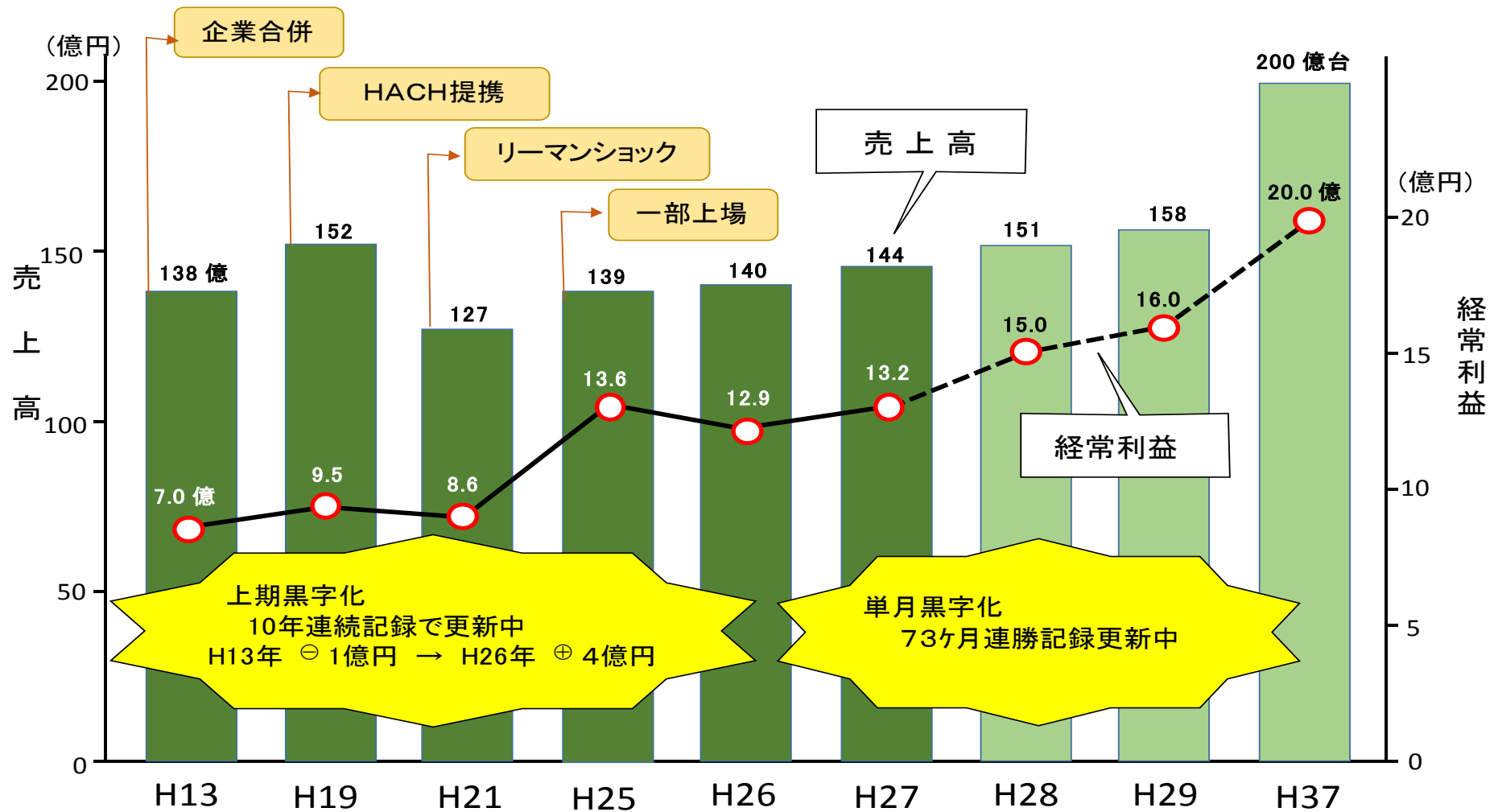
面から球への経営

－ 三位一体の組合せ改革で“独自性”を打ち出す －

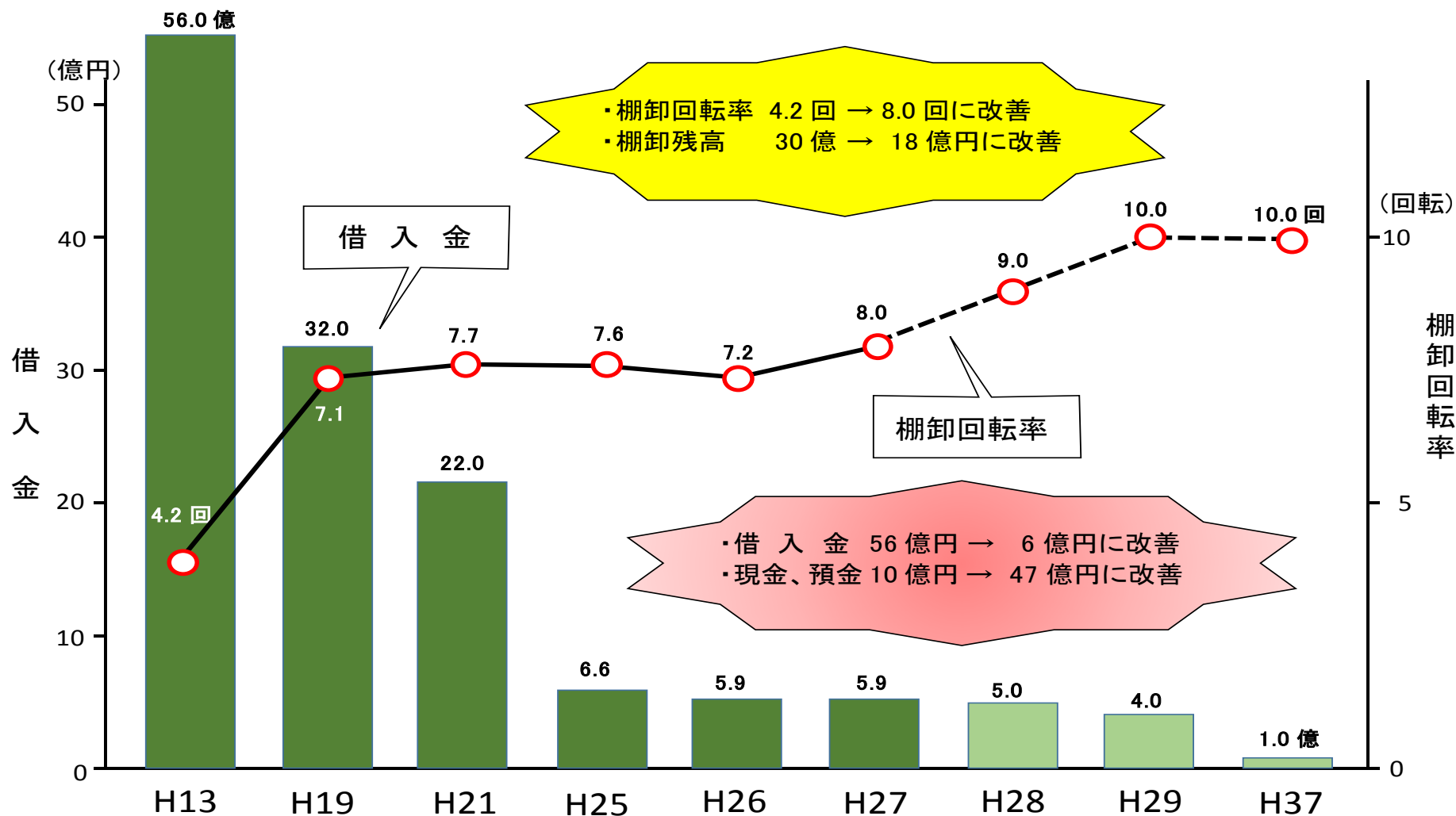


三次元“独自化”経営のイメージ

売上高・経常利益の推移



借入金・棚卸回転率の推移



- ・20年…鬼手仏心の名外科医を座右の銘とする経営。
（東亜DKKグループ総力戦での改善活動で危機突破の経営）。
- ・21年…世界同時不況下“非常事態宣言”の発令。
（東亜DKKグループ総力戦での改善活動で危機突破の経営）。
- ・22年…グローバル企業を目指す“品質一番運動”の展開。
（世界最高水準の品質で“地球の環境保全”に貢献する）。
- ・23年…歴史的構造改革で“全員参加型”の経営。
（グローバル経営を加速させ自然災害の支援と復活宣言）。
- ・24年…世界経済の失速…全社員“イノベータ宣言”。
（全社員がワンランクUPの改革で限界突破の成果加速）。

- ・25年…世界最高水準のサービスを原動力とする経営。
(グループの連結経営力発揮で不動産依存体質からの脱却)。
- ・26年…世界で戦える“世界最高水準の頭脳集団”を創る。
(一部上場を契機に“お客様に選ばれる”独自性発揮の経営)。
- ・27年…お客様の喜びを経営の喜びとする“心の経営”。
(世界を変える技術と常識を変える社員で人が輝く経営)。
- ・28年…成長持続の夢プランスタート(三次元“独自”経営)。
(全社員の仕事を全世界に拡大、無限のお客様を創り出す)。

平成28年3月期第2四半期決算サマリー



- 新たな3ヶ年中期経営計画「HYBRID経営計画」を4月からスタート
- 売上高は国内・海外輸出の伸長及び不動産賃貸事業の増収もあり
合併以来過去最高
- 収益は売上拡大に伴う粗利益の増加が販管費の増加を上回り増益
- 単月黒字化73ヶ月連続記録更新中(平成21年9月から6年1ヶ月)

(単位:百万円)

	26.2Q 実績	27.2Q 実績	前期比増減	
			金額	%
売上高	6,395	6,669	274	4.3
営業利益	399	453	53	13.4
経常利益	415	480	64	15.5
四半期純利益	226	281	55	24.6

(注)金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

平成28年3月期通期業績予想(修正なし)



- ・ 主力の環境・プロセス分析機器は、国内では環境省第5次水質総量規制時に導入した機器の更新需要が本格化するとともに、海外では中国を始めとするアジアを中心とした環境保全意識の高まりにともなう計測機器需要の増加が今後も期待。また、科学分析機器は医療関連機器分野の回復傾向と、11月から販売開始の卓上型水質計の新製品「Xシリーズ」に期待。
- ・ 当期連結業績予想は概ね計画通り推移しており、現時点では平成27年5月8日に公表の通期の業績予想の修正はなし。

(単位:百万円)

	H27.3 実績	H28.3 予想	増減	
			金額	%
売上高	14,066	14,400	334	2.4
営業利益	1,265	1,300	35	2.8
経常利益	1,287	1,320	33	2.5
当期純利益	759	900	141	18.5

配当推移と平成28年3月期配当予想(修正なし)

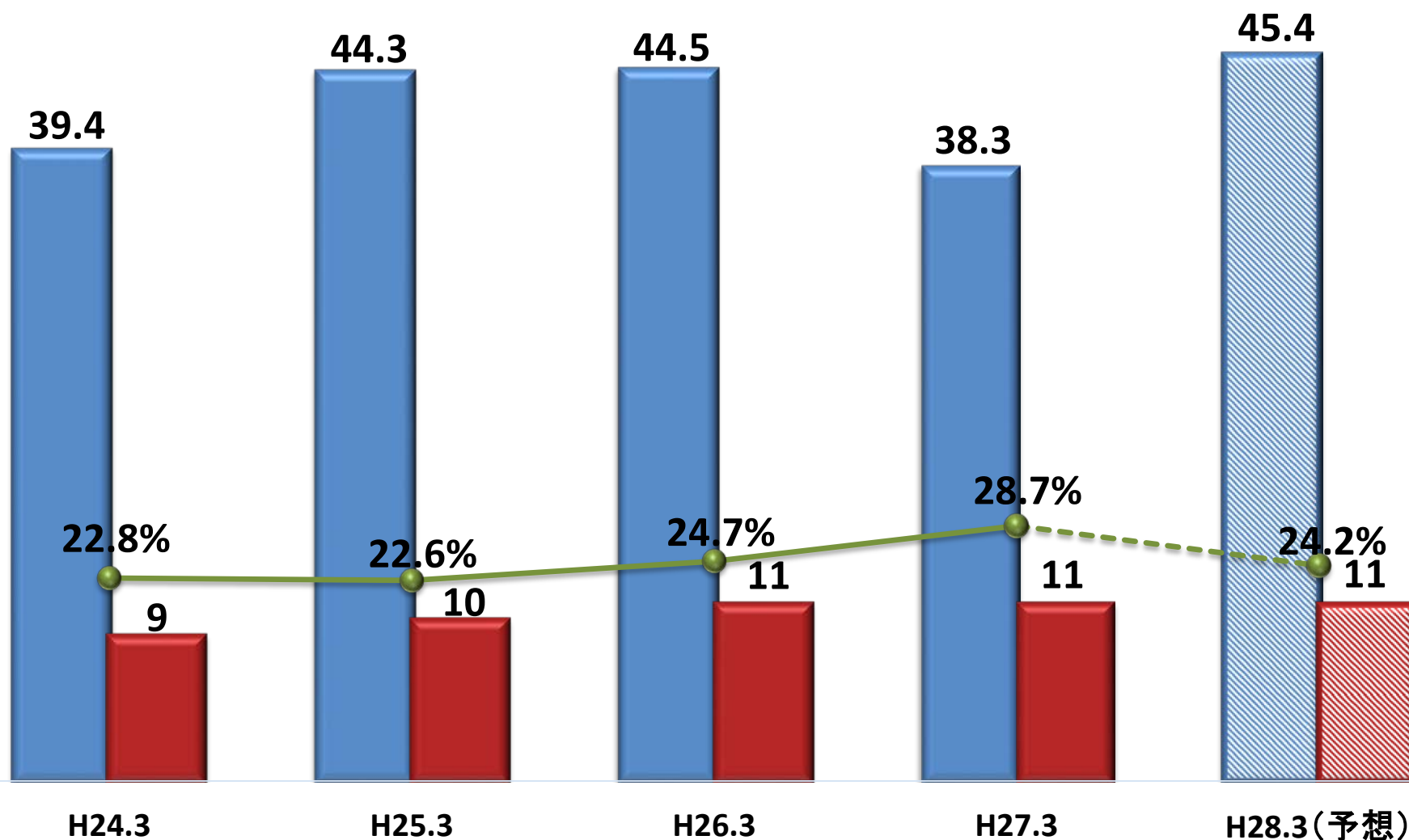


■ 1株当たり純利益

■ 1株当たり配当金

● 配当性向

(単位:円)



(1)クウェート国KCCEC社と販売代理店契約を締結

平成27年9月9日、クウェート国のエンジニアリング会社 KCCEC社(KCC Engineering and Contracting Company)と販売代理店契約を締結。

経営戦略の一つに海外販売の拡大を掲げ、中国、韓国等のアジア諸国と並び中東地域でのプラント用分析計の需要獲得も重要課題。クウェート国においては、従来より国内プラント各社を通じて多数の発電所や造水プラントに納入実績があり高評価。今回、MEW(水・電力省)など、クウェート国の政府機関への納入実績も豊富なKCCEC社との契約を機に、中東地域で更なる販売拡大を目指す。



(2)新製品紹介

平成27年11月から、主力機種の一つである卓上用水質計をフルモデルチェンジした「Xシリーズ」全6種の販売を開始。

本シリーズは、従来シリーズのモデルチェンジ品で、機能やユーザビリティを向上させ、ラボ測定に最適な水質計として提案。上位モデルには大型カラータッチパネルを搭載し、視認性・操作性・メンテナンス性も向上。電極には測定項目ごとに異なるカラーを用いて識別しやすくしたほか、より柔軟なリード線を採用して使い勝手を向上。本モデルの投入により、当社のコア技術であるラボ用分析計の売上増進を図る。



(3)PM2.5(微小粒子状物質)測定装置」の中国国家認証を取得

平成27年年11月9日、中国における「PM2.5(微小粒子状物質)測定装置」の国家認証試験に合格。連続安定試験、四季毎の精度試験など、およそ1年間にわたる厳しい環境試験で高評価を経て、認定書を受領することができました。ご承知のとおり、環境問題が深刻化している中国は国を挙げて環境保全に取り組んでいます。当社は中国では環境水質分析計で既に多くの実績がありますが、これにPM2.5測定装置が加わったことで水・大気の両面から中国の環境保全に貢献できることとなり、今後の中国での環境ビジネス拡大に大いに期待しています。



(4)「東亜ディーケーケー株式会社 ソウル事務所」開設

当社中期経営計画(HYBRID経営計画)に基づく海外営業本部の成長戦略の一つとして、「東亜ディーケーケー株式会社 ソウル事務所」を本年12月中旬に開設することを決定しました(申請手続き中)。ソウル事務所は、韓国における東亜DKKのブランド力の向上と市場拡大を図るため、需要動向の把握と技術的PRを中心に、韓国における水・大気の環境保全技術交流及び韓国エンジニアリング会社との技術協力を行い、加えて韓国のプラント業界を通じて全世界への輸出を側面的に支援する体制を取り、日韓の技術交流及び環境保全に資することを目的としたものです。

体質強化のための第5次中計改め

“HYBRID経営計画”

(平成27年4月1日～30年3月31日)

5つの宣言

- ① 10年先夢プランで、全社員が夢と希望ある企業文化を創造する。
- ② 独自環境保全の技術で世界の人々に貢献できる製品を開発する。
- ③ 世界最高水準の頭脳集団を創り、お客様に選ばれる企業を創る。
- ④ 最速のビジネス・スピードで最高水準のサービスを提供する。
- ⑤ お客様の喜びを経営の喜びとし、仕事のやり方を激変させる。

HYBRID

➤ 融合や組み合わせ、そして、ハード、ソフトに加えハートウェア
「心の経営」も融合させ、三位一体の新たな経営を目指す

- ① HACHと東亜DKKの融合と技術の組合せで30%のビジネス拡大。
- ② 女性の各本部での活躍とシニアの技術力発揮で30%の収益率拡大。
- ③ 品質と生産の両立、直接員・間接員の融合、組合せで30%効率UP。
- ④ 産・官・学のコラボで未来コア技術の開発と新たな分野製品の開発。
- ⑤ 全社員の独自性発揮と組織の融合、人財の組合せで
お客様中心の組織。

1.経営理念

『誠実・創造・挑戦』をモットーに地球環境保全と豊かで人にやさしい社会環境の実現に貢献します。という経営理念の下、東亜DKKグループでは、「健全な財務体質の維持」と「収益基盤の拡大」に向け継続的な成長を実現するため、更なるグループの発展と企業価値の向上を目指す。

2.基本方針

「HYBRID経営計画」は、環境保全の独自技術で世界の人々に貢献するとともに、全グループ社員一人ひとりが自立型社員として経営参加し「心と強い絆」で、「**躍進の10年先夢プラン**」の実現に向けて、より強固な礎を築くための重要な3年間と位置づける。

国内事業の持続的成長、今後も市場拡大が見込まれる中国を始め海外での飛躍的成長、HACH No.1 GOAL、単月黒字化の連続達成を目指すとともに、成長を確実にするための基礎固めを行う。

3.経営指針

➤世界最高水準の頭脳集団で独自性
のある「仕事のやり方を変える」経営

- ① 独自のコア技術で世界最高水準の製品群を開発する。
- ② 独自の営業力で世界最高水準のサービスを提供する。
- ③ 企業全領域の品質(挨拶含)を世界最高水準にする。
- ④ 女性の活躍・シニアの技術を収益拡大に直結させる。
- ⑤ 国際市場でお客様に選ばれるブランド力を創造する。

4.成長戦略

- ① 開発戦略・・・開発期間を1/2に短縮し、独自製品のシリーズ化により新製品革新率25%に拡大させ財務体質を強くする。
- ② 営業戦略・・・HACHと完全融合し、中国、アジアの販売力を強化、海外売上高30%に挑戦し国際的なプレゼンスを向上させる。
- ③ 生産戦略・・・独自設備を開発し、海外に負けない生産技術力でコスト競争力をつけ、収益力拡大と最良の品質を創造する。
- ④ 品質戦略・・・全社運動で企業全領域の品質レベルを上げ、外部不良を1/2に激減させる。更に開発品認定のレベル精度UP。
- ⑤ 管理戦略・・・女性管理職拡大・シニア制度改革、若手の活躍等、ビジネス知力の高い人財を育成、未来を変える社員の拡大。

5.重点施策

- ① 海外ビジネス拡大に対応した幹部強化及び部員増員と教育。
- ② 各本部が原価率65%を維持する原価低減を業務効率UP。
- ③ 全幹部が質の高いマネジメント能力を発揮して業績拡大。
- ④ 独自開発力強化とサービス部品で収益力を拡大する戦略。
- ⑤ 関連子会社の最適業務配分と最適人員配置で総コスト削減。

6. 経営目標値(平成29年度連結)

本中期経営計画の最終年度で、売上高15,800百万円、経常利益1,600百万円と過去最高益の達成と経常利益率10%以上を実現する。

- ① 売上高 15,800百万円(内不動産270百万円)
- ② 経常利益 1,600百万円(対売上高経常利益率10%以上)
- ③ 海外売上高比率 15%以上
- ④ 新製品革新率 25%
- ⑤ 棚卸資産回転率 10回転以上
- ⑥ 外部不良直接費 40百万円以内
- ⑦ 自己資本利益率(ROE) 10%以上

3カ年の売上高、営業利益及び経常利益（連結）

（単位：百万円）

	H25 実績	H26 計画	H26 実績	H27 計画	H28 計画	H29 計画
売上高	13,923	14,440	14,066	14,400	15,100	15,800
営業利益 （営業利益率）	1,310 （9.4%）	1,430 （9.9%）	1,265 （9.0%）	1,300 （9.0%）	1,480 （9.8%）	1,580 （10.0%）
経常利益 （経常利益率）	1,357 （9.7%）	1,460 （10.1%）	1,287 （9.2%）	1,320 （9.2%）	1,500 （9.9%）	1,600 （10.1%）